

# 木野通信 KINO PRESS

KINO PRESS Issue 54 | 京都精華大学広報誌

木野通信

京都精華大学  
MAY, 2012 Issue 54



巻頭 卒業生インタビュー

## マンガ家・助野嘉昭の作家論。

大学ニュース

ポピュラーカルチャー学部のカリキュラム、教員を発表／イラスト学科が誕生

連載企画

研究室探訪／教員のブックレビュー／京都精華大学の原点など

54  
号

## 特集 01 FEATURES 01

04 巻頭 卒業生インタビュー「貧乏神が！」アニメ化決定！マンガ家・助野嘉昭の作家論。

10 活躍するマンガ卒業生

## 特集 02 FEATURES 02

11 ポピュラーカルチャー学部のカリキュラム、教員を公開／イラスト学科が誕生

## 大学ニュース NEWS

15 芸術選奨新人賞を受賞／第41回日本漫画家協会賞を受賞／環境マネジメントシステム ほか

## 連載企画 REGULARS

20 研究室探訪 陶芸コース 宮永甲太郎先生の授業をレポート

教員のブックレビュー 人文学部 藪内智先生が選ぶ「ことばにはまるキッカケをくれた」本

セイカ事典 あ行

イベント紹介 アセンブリーアワー講演会／石川九楊連続 [公開] 講座／デザイン学部建築学科・連続レクチャーシリーズ

講演会レポート 岡本清一記念講座

23 精華で学びたい方へ 高校生、受験生向けに開催するイベント情報／オープンキャンパス／進学相談会／資料請求について

24 京都精華大学の原点 第1回『1967 誕生前夜～時代が京都精華大学を求めた』

26 ○○を語れ 第1回『自由』

# 「貧乏神が！」アニメ化決定！ マンガ家・助野嘉昭の作家論。

## 精華で学んだこと、マンガ家として生きること。

助野嘉昭、30歳。集英社『月刊ジャンプスクエア』で『貧乏神が!』を長期連載中であり、発行されている単行本は12冊。今年7月には念願のアニメ化も果たす。

順風満帆にマンガ家としての道を歩んできたかに見える助野さん。

精華での学生時代、マンガ家として生きる今など、彼の歩んできた道とこれからの迫る5000字インタビュー。

text by MATSUMOTO Hajimu, photographs by ARIMOTO Maki

新人賞に入選する。投稿が認められ、商業誌に作品が掲載される。それはもちろん努力のたまものだが、こと京都精華大学のマンガ学部に限れば、けっして珍しい話ではない。在学中に連載を始める学生もいる。それだけマンガの基礎力やセンスを身につけた、才能の原石が集まっていることは、マンガ界では周知の事実になっている。

ほんとうに難しいステップはその先にある。高いレベルの作品を生み出し続けること。一線の描き手としてシーンにとどまり続けること。作家性と同時代性を備え、読者を魅了し続ける描き手だけが、代表作と一緒に名前を記憶される真のプロになれる。その数はいかに精華のマンガ学部出身者といえども、そう多くはない。

助野嘉昭さんは、今まさにそのステップに足を掛け、力強く上ろうとしている1人だ。

2004年に精華の芸術学部マンガ学科ストーリーマンガ専攻(当時)を卒業。06年に女貧乏神をメインキャラクターにした短編コメディ「帰ってください。」で、数ある新人登竜門の中でもメジャー級の集英社の手塚賞に入選(最高賞)。これを原案に08年からは月刊誌『ジャンプスクエア』(S Q)で『貧乏神が!』の連載を

スタート。好評を得て、この6月でまる4年を迎える。コミックスは現在12巻を数え、さらにはアニメ化が決定。7月から放映が始まる。こんなストーリーだ。

生まれながらにして容姿端麗、頭脳明晰、無病息災。裕福な家に育ち、金の心配をしたことも、努力したこともなく、ついでに言えば巨乳にも恵まれた高校生、桜市子。この超絶ラッキーガールが人間界の「幸」と「不幸」のバランスを崩している、と貧乏神の世界から送り込まれた紅葉。めんどくさがるの脱力系だが、市子の幸福エナジーを奪うことには意地と情熱を燃やす女貧乏神である。

この2人のキャットファイト、つまり女同士のハチャメチャバトルを軸に物語は展開してゆく。恵まれてはいるが、ジコチューでタカビーな市子は、家庭や友情には縁遠い。次々と目の前に現れる神々や個性的な同級生たち、長年生き別れ状態だった両親によって、彼女の心が開かれていく…かどうかは、読んでのお楽しみ。

助野さんも経歴だけ並べれば順風そのもの。しかし、ここに至る道程はけっして平坦ではなかった。彼の歩んできた道、これから目指すものをじっくり聞いてみた。



## 祭りで忙しすぎた大学時代

—精華では「祭り（学園祭）」に打ち込んだ、と聞きました。  
そうですね、1年生の最初に祭りの実行委員会に入って。高校まではオタクで引っ込み思案で、社交性のない人間だったんですけど、なんか突然汚いカッコした先輩たちがやって来て、引き込まれて（笑）。学園祭やのに体育会系ノリで、一度入ると足抜けできないコワイ世界（笑）。まあ、そういう所で鍛えられて、性格を変えたいという思いも自分の中にちょっとあったんでしょね。  
当時は6月と11月の2回、祭り

があつて、本番2カ月前から会議だ、広告取りだ、装飾だ、立て看板だとはんと忙しくて、授業に出る時間がない（笑）。直前になれば徹夜はザラですし、当日は警備に走り回る。とにかく体力勝負なんですよ。だから今、仕事が少々キツくても、「祭りよりはマシやから」って思えますね。

—授業に出ない、というと、マンガのほうは…。  
いや、ほとんど描かなかつたですね。与えられた課題をこなすぐらい。「本を読んで8ページのマンガにしなさい」とか「このテーマで短編を描きなさい」とか。マンガ家になりたい、なれるかも…

直してうちに、いったい何がおもしろいかわからなくなってきたんです。積み上げた石を一気に崩されるような感じ。で、ここからノイローゼの日々に突入しました（笑）。

## 悩み抜き「楽しむこと」を知る

—ノイローゼ！ それはどれぐらい続いたんですか。  
5カ月ぐらい。こんなに苦しいのならマンガ描くのやめようと思ったこともありました。でも、そんな中で思い出したんです。以前、『銀魂』の作者（空知英秋）が読者の質問に「楽しんで描くことを忘れないように心掛けている」と答えていたのを。自分は楽



が夢を抱いて精華に入ったはずなのに、とりあえず卒業するためだけに描いていたというか。  
でも一人前に理想は語るんですよね。誰かの下宿に集まって「俺の描きたいマンガはこうだ」「俺たちが新しい作品をつくる」とか言って、朝まで熱く語る。よく言えばトキワ荘状態（笑）。で、スズメがチyunチyun鳴く頃、「やっぱり描かなあかんよな」という話になって解散（笑）。いつもその繰り返し。頭でっかちでしたね。

—でも、周りにはバリバリ描いている人もいたでしょう。焦りとかはなかったんですか。  
もちろん本気でマンガ家を目指して、ひたすら描いている人はいました。同人誌を作ったり、積極的に投稿したり。「誰それが新人賞獲ったんやって」「今度から連載始めるらしい」とかいった話が聞こえてくると、刺激になりました

しむ気持ちを忘れていたんだと気づき、とりあえずスケッチブックに「楽しんで描く」と書いて壁に貼ってみました（笑）。シンプルですけど、それがノイローゼから得た教訓ですね。楽しんで描かないと、読者に伝わらないし、続かない。

で、次にやっぱり『月刊少年ジャンプ』への投稿で何位かに入選したんです。賞金15万円でした。それでちょっと満足しながら、賞が発表された雑誌を開いてみたら、僕の名前が小さく載った隣のページに、精華の2年下になっていた織田昭代という女の子がトップの賞を獲ったことがデカデカと載っているんですよ。ちなみに賞金は50万円（笑）。彼女は在学中から「天才だ」と評判で、僕みたいな凡人は、天才にヒョイと追い越されたような気分でした。これはダメだと思いましたよ。こんなレベルで満足してた自分が恥ずかしくなりましてね。俺は凡人やけど、もうちょっと頑張るから、もう一回勝負させてくれ、とやる気が出てきた。その子がいなかったら、あの時の入選で止まってたかもしれませぬ。

## 「女貧乏神」の一言で着想

—そして06年に「帰ってください

よ。でも、結局さっき言ったような感じで。自分は何を描きたいんだろう…と模索していて、最後までちゃんと描き上げた作品も数えるほどしかない。

卒業後はとりあえずバイトしながらマンガを描こう、と。ところが、時給750円の定食屋で月に20万円稼ぐほどの頻度でシフトに入れられるようになったちゃって、マンガ描くどころじゃない（笑）。俺は何やってるんやろ…となって。そこからですね、一念発起したのは。

卒業から半年ほどした頃、ヒーロー戦隊もののパロディみたいなマンガを描いて、友達と3人で出版社に持ち込みました。10社ほど回ったんですが、3人も筆にも棒にもかからない。でも、その作品を『月刊少年ジャンプ』の新人賞に投稿したら、運良く最終候補に残ったんです。賞金は5万円。それでいちおう担当編集者が付き、ネームのやり取りをするようになったんですが…。

—すんなりとはいかなかった、と。ええ。その編集者の方には、とてもいろんなことを教わったんです。読ませる技術とか、キャラクターの人物設定とか。親身になってくれるけれど、甘えは許さないという人で。ネームの段階でOKが全然出ない。5回10回と

い。』で手塚賞を獲られます。連載中の「貧乏神が！」につながる作品ですが、どんな経緯でアイデアが生まれたんですか。  
何の番組かは全然覚えてないんですけど、テレビでたまたま「女貧乏神」という言葉を耳にしたんですよ。おもしろそうだなと印象に残って、その言葉を頭の中でイメージするうちに、降って湧いたように生まれてきたのが、紅葉というキャラクター。そこからストーリーが広がっていきました。

描いた時期は06年2月ですね。これは初めて自分でも納得できた自信作でした。あの厳しい担当編集者さんが、原稿を読みながら時々笑いを漏らすのを見て、手応えも感じました。それで手塚賞をいただいて。賞金？ 200万円でした（笑）。

ところが当時の自分としては、あれはできすぎだったんですね。どうすればあの作品を越えられるかわからなくなつて、また悩みまくることになった。2度目のノイローゼです（笑）。これは長かったですよ。途中、まったく別の作品を描いたり、アシスタントをやったりもしましたが、とにかくあれを越えないことには前に進めない、という心境でした。

—2作目のプレッシャーですね。全然レベルの違う話になります



けど、すごいマンガ家って、必ず前の傑作や出世作を超える2作目があるんですよ。アラレちゃん(鳥山明)、『ドラゴンボール』の次には『ドラゴンボール』があるし、『スラムダンク』(井上雄彦)には『バガボンド』がある。『幽☆遊☆白書』(富樫義博)には『HUNTER×HUNTER』。1作目だけで十分すごいのに、2作目はもっとすごい。

そのプレッシャーに打ち克つていかないと、マンガ家として生き残れないな、という思いはありますね。それは今でも。

### キャラが動けば話は膨らむ

「短編の「帰ってください。」から、長期連載となり、登場するキャラや世界観が複雑多様化していく「貧乏神が!」に至る決め手は何だったのでしょうか。

紅葉とバトルを繰り広げるもう一人の主人公、市子のキャラ設定ですね。最初はごくふつうのかわいい女の子にしていたんですよ。でも、それだとも話が広がらないし、何よりあまりおもしろくない。キャットファイトのドタバタを描きたいというコンセプトはありましたが、だったら市子の性格を自己中心的で利己的のわがままで、徹底的に悪くしたら…と考

えてみたんです。

ヒントをくれたのは、大学時代からずっと一緒にマンガ家を目指してきた木村光博くん。彼は最近『少年サンデーS』で連載を始めたが、ギャグとか笑いのアイデアが豊富で、学生の頃からものすごくセンスがあった。そこから話がどんどん膨らんでいったんです。

いろいろな局面で精華のマンガ仲間が刺激や影響を与えてるんですね。それにしても、あらためてキャラ設定の大切さがわかります。

キャラが勝手に動き出すという

のは、絶対にありますね。当初考えていたあらずじが、キャラの性格や行動に引つ張られて違う展開になったり、1回きりのつもりだったキャラが描いてみたらおもしろくて、ずっと残っていったりすることもある。懋哉威(ポピー)も霊力は高いが、スケベで変態、いつも話をややこしくする外国人僧侶)とかはそうですよ。だから「貧乏神が!」は紅葉や市子をはじめ、「キャラ先行」で生まれてきた作品と言えます。話の結末と

いうか、こういうラストにしたいというのは、すでに頭の中にあるんですけど。

### 神話的世界を「コメディ」で

「キャラの多彩さとともに、貧乏神から福の神、犬や狐の化身、京都にも民間信仰が残る付喪神まで、日本古来の神々が登場する神話的な作品世界も魅力的です。しかも、それがオカルトやシリアスな話ではなく、笑いを生むという。

八百よろずの神がいる日本の神話的な世界を描きたいと思って、下調べは結構しましたね。『日本書紀』や『古事記』を読み込んで、京都にいたことの影響はどうかわかりませんが、和歌山の田舎で育ったので、知らず知らずになんかそういう環境から学んできたのかもしれない。といっても、調べたことをそのまま描いたのではおもしろくないし、二番煎じになってしまう。それをどう自分の作品世界に取り込んでいくかというのは常に意識しています。

自分が描いているのはギャグというより、ドラマあり、笑いありのコメディだと思っています。パロディや貧乏神が使うアイテムでちよこちよこ笑いを挟みながらストーリーを進めていくという感じ。ギャグマンガというのは、そ



## アニメ化はマンガを描いてきた中での大きな目標の一つだった

るのに、自分は好きなマンガばかり描いていて申し訳ない。みたいなことをどこかで話しておられました。尾田先生はマンガを仕事だと思っていないんですよ。あんなにスゴい仕事をされているのに、子どもの頃からの遊びの延長だと思ってる。さっき「楽しんで描く」という話をしましたが、その究極のかたちだと思います。

「7月からはいよいよ「貧乏神が!」のアニメが放映されますね。アニメ化によって作品が広まる一方で、作品やキャラのイメージが変わり、読者が戸惑う場合もしばしばあります。原作者としてはどう見られますか。

アニメ化はマンガを描いてきた

中での大きな目標の一つだったの、それは単純にうれしいですよ。マンガでもアニメでも、作品の受け止め方や解釈、キャラに対する印象というのは読者や視聴者がそれぞれ抱くものだから、僕がどうこう言っても仕方がない。それよりも、多くの人たちに作品を観てもらえることが楽しみです。

これまで描いてきて思うのは、マンガというのはやっぱりウケるかウケないか、これがすべてなんです。アニメ化というのは人気の一つのバロメーターですから、少しでも長く、よりたくさんの人に「貧乏神が!」の世界が伝わればいいな、と思っています。

### TAKEMIYA Keiko TALKS About SUKENO Yoshiaki

竹宮恵子先生  
が語る  
助野嘉昭さん



竹宮恵子 マンガ学部ストーリーマンガコース教員/マンガ家代表作『風と木の詩』『地球へ...』で小学館漫画賞受賞。『風と木の詩』(1976年連載開始)では少年の同性愛を描き、マンガ界に衝撃を与えた。

入学したときから、才能を感じていたと竹宮先生。学生時代のエピソードや、今後の助野さんに期待することを語ってもらった。

当時の彼は祭りの実行委員会に入っていたので、大学には来ているけど、授業には出ない。でも、よく研究室に「何か食べるものない?」と訪ねてきては作品について話したりしていました。もともと絵がうまくて、ストーリーもちゃんと作れる。気分が乗ってくると、80ページほどの作品も描けるんです。でも、気分が描いていないので、読者に読ませる中身の濃い作品にはなっていない。そんな状態が卒業してからも続いていましたが、後輩が賞を獲ったのをきっかけに変わったみたいですね。負けられないと思って描いた作品で手塚賞を獲った。それが「貧乏神が!」のもとになった作品です。「貧乏神が!」はこんなに長く続く話になるとは思いませんでした。今こそ、なぜこんなに人気になったかを自分なりに整理して、続く2作目、3作目を考えておいてほしい。彼はもともと明るい人なので、今は陽性の面を活かしていい作品を描いていると思います。ただ、人はいろいろな面を持っているので、人間の奥行きみたいなのを作品で表現できるとマンガ家として次のステップに進めるのではないのでしょうか。アニメ化も控えています。これからはアニメとの競争になっていくと思います。どうしても、原作との表現は違ってしまうので、アニメの「貧乏神が!」が持つイメージと戦うことになる。アニメで増えたファンも大切に、より原作のレベルを高めていってほしいですね。

※竹宮先生がもっている色紙は、デビュー後にコースを訪ねてきた助野さんがその場で描いたもの。

### 「貧乏神が!」 7月TVアニメ放送開始

今年7月、「貧乏神が!」がアニメ化される。監督はテレビアニメ「銀魂」の監督を務めた藤田陽一氏。花澤香菜、内山夕実ら豪華声優陣を迎え、2012年夏もっとも注目されるアニメである。

原作: 助野嘉昭  
監督: 藤田陽一(『銀魂』など)  
シリーズ構成: 下山健人(『BLEACH』)  
キャラクターデザイン: 田辺謙司  
制作: サンライズ  
キャスト: 桜市子 役 花澤香菜  
紅葉 役 内山夕実 ほか



©助野嘉昭/集英社・「貧乏神が!」製作委員会

MUSIC × FASHION

※  
ポピュラーカルチャー学部の  
カリキュラム、教員を公開

ポピュラーカルチャー学部  
音楽コース／ファッションコース(定員118名)

京都精華大学では、2013年4月、ポピュラーカルチャー学部を開設する。ポピュラーカルチャーを学問対象として専攻する日本で初めての学部となり、ポピュラー音楽とファッションを学ぶ2コースから構成される。文化表現を通して産業界の将来を担い、世界で活躍できる人材の養成を目指している。

P12-13

※  
イラスト学科が誕生

デザイン学部 イラスト学科イラストコース(定員64名)

「イラスト学科」が2013年4月に開設される。現ビジュアルデザイン学科イラストレーションコースの教育理念を継承しつつ、さらに広範囲に、より専門領域に特化した教育を目指す学科となる。雑誌、新聞、ポスター、Webなどのデザインや広告の世界から、絵本、コミック、ビジュアルアートまで、表現のフィールドやメディアを限定せず、活躍できる人材を育成する。

P14

Graduated from Faculty of Manga  
活躍するマンガ卒業生

えすとえむ | マンガ家

大学院芸術研究科 2007年修了



2006年「ショーが跳ねたら逢いましょう」(東京漫画社)でデビュー。「うどんの女」(祥伝社)が「このマンガがすごい! 2012 オンナ編」で3位にランクイン。現在『IKKI』(小学館)にて「Golondrina ゴロンドリーナ」を連載中。



榎屋克優 | マンガ家

ストーリーマンガコース 2010年卒業

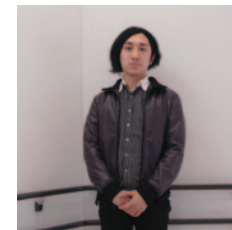


2007年YJ月例 MANGA グランプリで「あいず」が準グランプリを受賞。2010年週間ヤングジャンプ(集英社)にて「日々ロック」を連載開始。同作品が「マンガ大賞 2012」にノミネートされる。初の短編集「ミッドナイト・ウォーク」も刊行。



金城宗幸 | マンガ原作者

マンガプロデュースコース 2010年卒業



卒業制作で描いたギャグマンガ「第7位」が『週刊少年ジャンプ』主催の赤塚賞佳作を受賞。その後、マンガ原作者に転向。2011年から『別冊少年マガジン』で原作を担当した「神様の言うとおり」を連載。現在、同誌に「ドラゴンコレクション」を連載中。



石田祐康 | アニメーション作家

アニメーションコース 2011年卒業



3年生の時に制作した「ファミコの告白」で「YouTube VIDEO AWARDS JAPAN 2010」アニメーション部門、東京国際アニメフェア 2010 学生部門優秀作品賞など数々の賞を受賞。卒業制作の「rain town」では第15回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門新人賞などを受賞。



junaida | 画家

マンガ専攻(現カートゥーンコース) 2001年卒業



国内外の個展や展覧会で作品を発表する傍ら、さまざまな媒体のアートワーク制作など多岐に行う。「AMUSE ART JAM in KYOTO」準グランプリ受賞。最新の展覧会は2011年、吉祥寺キチムでの個展「Orchestra」。



間崎 溪 | アニメーター

アニメーションコース 2011年卒業



「うたの☆プリンスさまっ♪マジLOVE100%」「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」など注目作品を手がけた株式会社A-1 Picturesに所属。最近では「宇宙兄弟」、「つり球」、劇場版「青の祓魔師」の動画を担当している。



© 小山宙哉 / 講談社 / 読売テレビ / A-1 Pictures

月川 碧 | 編集者 / ライター

マンガプロデュースコース 2010年卒業



現在、株式会社 blueprint にて雑誌やWebマガジンの編集者、ライターとして活躍。リクルート『R25』や『料理男子』『ウレぴあ』などの媒体で企画、取材、執筆までを一貫して担当している。



竹谷美智子 | 高等学校教員

ストーリーマンガコース 2011年卒業



京都芸術高等学校で教員として勤務。同校に2011年に新設されたマンガ文化表現コースでマンガを指導している。高等学校でのマンガ教育はあまり前例がない中、精華で学んだペンの使い方や効果、背景の描き方などの技術を生徒に教えている。



# ポピュラーカルチャー学部のカリキュラム、教員を公開

## ポピュラーカルチャー学部 就任予定教員

### 音楽コース

**佐久間正英 | SAKUMA Masahide**  
教授 / ミュージシャン、音楽プロデューサー

1975年に「四人囃子」ベーシストとしてデビュー。作編曲で実績を重ね、BOOWY、GLAY、JUDY AND MARYなど、数多くの日本を代表するロックバンドのプロデュースを手掛けている。

**永田 純 | NAGATA Jun**  
教授 / 音楽エージェンツプロデューサー

矢野顕子、大貫妙子のマネジメント、細野晴臣、野宮真貴、マルセル・マルソーなどのエージェンツを担当。2011年に一般社団法人ミュージック・クリエイターズ・エージェンツを立ち上げ、独立して活動するミュージシャン支援を行っている。

**Bose | ボーズ**  
准教授 / ミュージシャン

日本のヒップホップのバイオニア「スチャダラパー」のMC。ヒット作品は小沢健ことの共演「今夜はブギーバック」など。個人としてもテレビ、執筆など幅広いジャンルにて活動を行う。

### ファッションコース

**中道友子 | NAKAMICHI Tomoko**  
教授 / パタンナー

文化服装学院で40年近く教鞭をとる。自身の著作「パターンマジック」は世界的にも高い評価を得ており、各国語で翻訳されファッション業界でパターンの基本書として扱われている。

### 共通

**斎藤 光 | SAITO Hikaru**  
教授 / 研究者

専門は生物学史・性科学誌・近現代文化誌。著書に「幻想の性 衰弱する身体」、共編著書に「性的なことば」など。近年は、「京都のノど尖端少女」というテーマでもダニズムを調査中。また、日本の「カフェー」ジャンルを研究中。

### 客員教授

**藤原ヒロシ | FUJIWARA Hiroshi**  
音楽・ファッションプロデューサー

日本初のリミックスDJとして活躍し、音楽活動の他、多数のアーティストのプロデュースを手掛ける。また「裏原宿」と呼ばれる90年代のストリート・ファッションシーンを牽引し、現在、NIKEのクリエイティブコンサルティングも務める。

**高野 寛 | TAKANO Hiroshi**  
教授 / ミュージシャン、プロデューサー

トッド・ラングレンプロデュースによる「虹の都へ」「ベストテン」のヒット作品を持つ。その他、鈴木慶一、坂本龍一など多数のミュージシャンのサポートギタリストなども務める。

**中伏木 寛 | NAKAFUSHIKI Hiroshi**  
教授 / サウンドデザイナー

レーベル「サウンド・ワークス Na-Na」主宰。放送、イベント、店舗におけるBGM制作なども手掛ける。

**安田昌弘 | YASUDA Masahiro**  
准教授 / ポピュラー音楽研究者

10年以上にわたり欧州にて活動。訳書に「ポピュラー音楽理論入門」、「ポピュラー音楽をつくる」。共著に「ポピュラー音楽へのまなざし」など。

**西谷真理子 | NISHITANI Mariko**  
教授 / ファッションエディター

文化出版局にて「ハイ・ファッション」、「装苑」の雑誌編集に携わり、「ハイ・ファッションオンライン」のチーフディレクターを務める。その他、ファッションに関する企画展や執筆なども手掛ける。

**大下大介 | OSHIMO Daisuke**  
准教授 / プロデューサー

映画・演劇・TVの現場制作を経て、映像制作会社にてデザイン制作に携わる。現在、音楽フェス・店舗・商品の企画、運営を手掛ける。また、音と映像による空間演出ユニット「TEN\_SEN\_TEN」の一員として活動している。

**細野晴臣 | HOSONO Haruomi**  
ミュージシャン、プロデューサー

1947年、東京生まれ。69年、エイプリル・フルでプロデビュー後、はっぴいえんど、ティン・パン・アレー、イエロー・マジック・オーケストラ(YMO)などを経て現在に至る。2011年4月、ソロアルバム『HoSoNoVa』をリリース。

**近田春夫 | CHIKADA Haruo**  
教授 / ロックンローラー

近田春夫 & ハルヲフォンを始め数多くのバンドで活躍。ジュシーフルーツや小泉今日子など多数のアーティストをプロデュース。その他に『週刊文春』の連載「考えるヒット」など音楽評論でも活躍中。

**落 晃子 | OCHI Akiko**  
准教授 / 音楽家

高等学校、専門学校、大学等にて20年近く音楽教育現場に携わる。音楽家「RAKASU PROJECT」としてサウンドインスタレーションや現代美術作家との共演など活動も多数。

**谷口文和 | TANIGUCHI Fumikazu**  
講師 / ポピュラー音楽研究者

産業やメディアの観点から音楽にアプローチした研究活動を行う。共著の「音楽未来形〜デジタル時代の音楽文化のゆくえ」のほか、『ミュージックマガジン』誌など商業音楽専門誌などにおいても執筆活動を行う。

**柳田 剛 | YANAGIDA Takeshi**  
教授 / ファッションデザイナー

「トキオ・クマガイ」の企画を経て、自身のブランド「ナイーマ (NaiyMA)」を設立。東京コレクションなどを中心に精力的に活躍。現在はフリーランスデザイナーとしてアパレルデザイン企画に携わる。

ほか

**Pierre Barouh | ピエール バルー**  
音楽家、俳優、プロデューサー、映画監督

カンヌ国際映画祭グランプリ作品のフランス映画「男と女」に俳優として出演。同名の主題歌にて作詞と歌を担当。ヨーロッパ最古のインディペンデントレーベル「サラヴァ (Saravah)」主宰。

ポピュラーカルチャー学部  
3つの特徴

- 音楽、ファッションを「つくる」「届ける」「考える」の3本柱で学ぶ。
- 音楽コース、ファッションコースが領域を越えてともに学ぶ授業がある。
- 一流のクリエイターである教員が直接指導する。

ポピュラーカルチャー学部では、「つくる」技術に加え、音楽・ファッションと社会をつなぐ「届ける」、音楽・ファッションを社会的に位置づける「考える」力も養う。音楽やファッションの歴史やビジネスモデル、マーケティング、批評など、理論の側面からも学ぶのが、大きな特徴。また、両コースがともに学ぶ「領域横断基礎演習」「企画演習」などの科目では、Webや写真、グラフィックなどの技術を学ぶほか、ファッションイベントや音楽イベント、Webコンテンツ、雑誌などを手段に、自分たちの音楽、ファッションを社会へ発信していくカリキュラムも設ける。

## MUSIC

### 音楽コース

音楽で世界を揺さぶるクリエイターを育てる。ポップスやロック、クラブミュージックをはじめとした「ポピュラー音楽」に取り組み、新しい時代に必要な音楽のつくり方を基礎から学ぶ。

#### 1年生

「導入」の期間。まずは「つくる」ことに焦点をあてる。録音機材で収録したり、曲をバラしてつくりなおすなど、曲づくりや音づくりの基礎を学ぶ。音楽に対して「まぐ」以外のアプローチを試み、いままでとは異なる音楽のとらえ方を獲得する。

#### 2年生

音響スタジオでのレコーディングや歌詞つきの作編曲に取り組みなど、1年次の「つくる」作業を一步進める。また同時に、「届ける」に特化した実習も行う。雑誌の編集やWebでの音楽配信、あるいはイベント運営などのプロジェクトを通じた発信手段も身につける。

#### 3年生

「つくる」「届ける」「考える」を軸に、クラスに分かれて各自のテーマを絞り込む。3年次終了時には、そのまま社会に出ても適応できる力の習得をめざす。音楽イベントを企画し、レーベルを立ち上げて、Webで音楽情報を発信することも想定。

#### 4年生

各自のテーマに関するひとりおりのスキルを得て、主体的に何かをつくる「創出」の1年。指導教員と相談を繰り返して、4年間の集大成となる卒業制作を完成させる。また、作品の制作だけでなく、制作物の発信や販売も視野に。

## FASHION

### ファッションコース

ファッションという表現で新しい世界観や文化を提案できるデザイナーを育てる。実際にショーをプロデュースするプロジェクトや、服のデザインからブランド設立までを体験する授業も実施する。

#### 1年生

まずは手を動かし、服づくりを好きになることから始める。ファッションデザインの原型となるパターンの基礎を知り、シャツやワンピースなどの制作実習も。また、ファッションについての固定観念を柔らかくするため、さまざまなジャンルの作品鑑賞やファッション批評も学ぶ。

#### 2年生

ジャケットをはじめとした複雑な服のデザインやパターンに取り組み、服づくりの基礎知識や基本的なテクニックを身につける。また、ファッションをWebや雑誌などのメディアで発信する手法など、つくったものを届けるための表現手段についても学んでいく。

#### 3年生

各自の興味に応じた内容のクラスに分かれる。ファッションブランドを立ち上げたり、立体裁断・パターンなどの技術を深めたり、ショップの空間演出や展覧会の企画も行う。選択した分野での技能をひとり得て、それぞれのスタイルを確立していく。

#### 4年生

4年次のテーマは「創出」。これまでに身につけた知識と技術を駆使し、卒業制作に取り組み。服のデザインと制作、ショーの企画やプロデュース、ファッション史を踏まえた新しいファッション論の展開など、その成果を結実させる。

## イラスト学科が誕生

### イラスト学科 カリキュラム

イラスト学科では、手で「描く」ことを基本に、感受性やセンスをみがき、東西の伝統的な技法からデジタルまでの多彩な技法を身につけていく。3年次からは、各自の将来を現実的に視野にいれて2つのクラスに分かれ、プロとして社会に発信していくため「伝える」ことを主眼におき、専門的に学ぶカリキュラムになっている。

#### 3年生・4年生 イラスト&ブックス クラス

手で「描く」ことをベースにした表現を追求して、独自のスタイルや個性を確立していく。何を、誰に、どのように「伝える」のかということを探りながら、各々の表現やイメージの世界を深めていく「イラストレーション」と、設定からストーリー展開まで、絵本の制作を実践的に学ぶ「絵本」の2つの科目を中心に、印刷媒体からデジタルまで、様々なメディアでのイラストを介したコミュニケーションのあり方を模索し、プロのイラストレーターや絵本作家の他、コミック作家、キャラクターデザイナーなどを目指す。

#### 3年生・4年生 アート&デザイン クラス

手で「描く」ことから展開して、写真やコラージュ、デジタル加工なども駆使し、先進的な表現の可能性を追求する「ビジュアルアート」と、手で「描く」ことをとおして身につけたオーガニックな感覚のビジュアルや構成力を発揮して、広告やグラフィックデザイン、グッズデザインなど、メディアを介してメッセージを伝えることを実践的に学ぶ「ビジュアルデザイン」の2つの科目を中心に、メディアの特性とコミュニケーションのあり方を理解し、アートとデザインのフィールドを横断して活躍するビジュアルアーティストやデザイナーを目指す。

#### 1年生

「イメージ表現」や「立体表現」の授業で感受性やセンスを磨き、想像力や構成力を養う。基本的な画力や身につけると同時に、「日本画」「水墨画」などの伝統的な技法や画材に触れる。

#### 2年生

手で「描く」力を鍛え、独創的で自由な表現を試みる。「銅版画」「テンペラ」「写真」など様々な技法を学び、表現の幅を拡げる。また、コンピュータの基本的なスキルも身につける。

### イラスト学科 就任予定教員

#### 小野 明 | ONO Akira

教授/絵本プロデューサー、編集者

約400冊以上におよぶ多くの絵本、児童書の企画・編集、エディトリアルデザインを手掛ける。五味太郎氏との共著も出版。その他にもプロの絵本作家を養成する「あとさき塾」「絵本塾」などを共同主宰。

#### スージー甘金 | SUZY Amakane

教授/イラストレーター

元祖マンガイラストレーター。コミック画家。80年代から現在に至るまで第一線で活躍するイラストレーター。著作は『キャラクターハンドブック』『ワンガンドッグ』など。またコミック画家として美術館・ギャラリーにて展覧会活動も行う。

#### 角田 純 | TSUNODA Jun

教授/グラフィックデザイナー、美術作家

広告、出版業界にて多数のデザイン、アートディレクションを手掛ける。2000年ごろから、美術作家として絵画作品を制作。個展、グループ展などで発表を行う。

#### 大高 郁子 | OTAKA Ikuko

准教授/イラストレーター

1988ADC年鑑入選。主な仕事に吉田武『はじめまして数学』、加藤由子『きょうも猫日和 猫のいる歳時記』、的川泰宣『宇宙のみみつがわかるえほん』、長沼毅『14歳の生命論』など。現・ビジュアルデザイン学科イラストレーションコース教員。

#### 北村ケンジ | KITAMURA Kenji

准教授/イラストレーター

デザイン制作会社を経てフリーイラストレーター。主な仕事は、書籍や雑誌などの出版物、絵本、広告等。受賞歴、「ザ・チョイス」「HB FILE コンペ」など。現・ビジュアルデザイン学科イラストレーションコース教員。

#### 岸本敬子 | KISHIMOTO Keiko

講師/デザイナー

デザイン企画制作会社にてデザイナーとして活躍。NTTドコモ、マツダ株式会社などの大手企業をクライアントとし、広告デザインを手掛ける。

#### ケソクヒデキ | KESSOKU Hideki

講師/イラストレーター

恩田陸や宮部みゆきの著作など、多数の装幀イラストレーションを手掛ける。そのほか、JR東日本やJ-WAVEなどの広告イラストレーションも手掛ける。

### 客員教授

#### 荒井良二 | ARAI Ryoji

絵本作家

1990年に処女作『MELODY』を発表し、絵本を作り始める。90年代より受賞歴多数。2006年には『スキマの国のポルタ』で文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞を受賞。

#### 山本容子 | YAMAMOTO Yoko

銅版画家

都会的で軽快洒脱な色彩で、独自の銅版画の世界を確立。数多くの書籍の装幀、挿画なども手がける。近年では、モザイク壁画やステンドグラスを制作し、幅広い分野で精力的に創作活動を展開。現・ビジュアルデザイン学科客員教授。

## NEWS

## 大学ニュース



**01** デザイン学部・佐藤守弘先生が芸術選奨新人賞を受賞

デザイン学部の佐藤守弘先生が文化庁芸術選奨新人賞（「評論等」の部門）を受賞した。

芸術選奨は、演劇、映画、音楽、舞踊、文学、美術、放送、大衆芸能、芸術振興、評論等、メディア芸術の11分野において、その年に優れた業績をあげ、新境地を開いた者を文化庁が選奨し、賞を贈るもの。今年は各分野から30名が選ばれた。

佐藤先生は、視覚文化研究が専門。著作『トボグラフィの日本近代―江戸泥絵・横浜写真・芸術写真』の業績が評価されての受賞となった。

### 02 マンガ学部・竹宮恵子先生と京都国際マンガミュージアムが「第41回日本漫画家協会賞」を受賞

漫画文化の普及と漫画界の向上発展をはかる目的のもとに優秀作品を顕彰する「日本漫画家協会賞」において、2012年度の文部科学大臣賞を竹宮恵子先生（マンガ学部ストーリーマンガコース/マンガ家）が受賞した。これまでのすべての作品と、大学でのマンガ教育にかける情熱とその功績が評価された。

竹宮先生は2000年にストーリーマンガコースに着任。以来、マンガ教育のあり方を模索し、多くの卒業生を輩出してきた。また、退色の危険のあるマンガ原画の保存と公開を両立させた「原画ダッシュ」の研究にも尽力している。

京都精華大学と京都市とが共同運営する京都国際マンガミュージアムは、特別賞を受賞。マンガ文化への貢献が認められての受賞となった。

### 03 環境マネジメントシステムの新たな取り組み

京都精華大学は、2012年度より環境に対する独自の取り組みを行っていく。

2000年、大学では日本で初め

### 04 教員の活躍

著作をはじめ、作品発表など、京都精華大学の教員の活躍を紹介する。

#### ◎ 劇場アニメ公開

『グスコブドリの伝記』

杉井ギサブロー（アニメーションコンコース教員/監督・脚本）

宮沢賢治の原作をアニメ化。7月7日より全国の映画館で公開される。

◎ 著書（2012年3月〜5月発行）

『書 文字 アジア』



石川九楊（ビジュアルデザイン学科教員／書家）／筑摩書房  
吉本隆明氏との12時間にわたる討論を収録。書字を通して日本文化の深層に迫る。

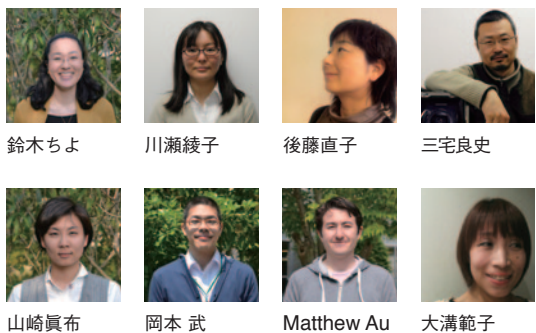
『ミュージコフィリア』3巻  
さそうあきら（ストーリーマンガコース教員／マンガ家）／双葉社  
美しい風景や音で溢れる京都を舞台に、芸大生たちが新しい音楽を鳴り響かせる――。

『テレビアニメ夜明け前―知られざる関西圏アニメーション興亡史』  
津堅信之（アニメーションコース教員）／ナカニシヤ出版  
戦後からテレビアニメ「鉄腕アトム」登場までの空白のアニメ史を明らかにする。

『森と草原の歴史―日本の植生景観はどのように移り変わってきたのか』  
小椋純一（人文学部教員）／古今書院  
江戸時代の絵図、古い絵葉書や写真などの膨大な事例を植物史研究の視点で分析。植生変化の実態を解明する。

『環境教育学―社会的公正と存在の豊かさ求めて』  
井上有一、細川弘明（ともに人文学部教員）／法律文化社  
既存の（環境教育）の限界と課題を根源的に問い直し、持続不可能な社会へ

川瀬綾子（マンガ学部）  
岡本武（事務局）  
鈴木ちよ（事務局）  
山崎眞布（事務局）



三宅良史  
後藤直子  
川瀬綾子  
鈴木ちよ  
大溝範子  
Matthew Au  
岡本武  
山崎眞布

## 07 2011年度退職教職員

左記の方々が2011年度で退職された。長岡国先生、田口瑛子先生には名誉教授の称号が授与された。

宇野茂男（芸術学部日本画コース）  
鈴木純子（芸術学部テキスタイルコース）  
長岡国（芸術学部版画コース）  
金子潤（芸術学部）  
島山直哉（芸術学部）  
黒河兼吉（デザイン学部プロダクトデ

向け、変革を志向する。

『イメージ（上・下 全2巻）』  
前田茂（人文学部教員）／ナカニシヤ出版  
イメージとはなにか。写真、映画、美術、展覧会などあらゆるイメージと人間の関わりを解説する。要真理子氏との共著。



『グスコープドリの伝記』  
©2012「グスコープドリの伝記」製作委員会／ますむら・ひろし

## 05 マンガ学科卒業生が『週刊少年ジャンプ』で連載開始

マンガ学科ストーリーマンガコース卒業生のミウラタダヒロさんの作品『恋染紅葉』が、集英社『週刊少年ジャンプ』No.23より連載を開始した。ミウラタダヒロさんは作画を担当、原作

デザイン学科  
永島譲二（デザイン学部プロダクトデザイン学科）  
片木孝治（デザイン学部建築コース）  
Sona Gevorkyan（デザイン学部建築コース）  
手塚貴晴（デザイン学部建築コース）  
Elena Manfredini（デザイン学部建築コース）  
高取英（マンガ学部マンガプロデュースコース）  
林律雄（マンガ学部マンガプロデュースコース）  
野村誠司（マンガ学部アニメーションコース）  
田口瑛子（人文学部）  
市地敬典（共通教育センター）  
藤田里美（共通教育センター）  
大山真貴子（事務局）

2012年度大学人事体制  
理事長 赤坂博  
学長 坪内成晃  
専務理事・常務理事（総務担当） 上々手良夫  
常務理事・副学長（教学担当） 新井清一  
常務理事・副学長（学生担当） 武田恵司  
常務理事（企画担当） 関口正春  
理事 杉本貞彦  
理事 尾池和夫  
理事 安村幸駿  
理事 高瀬哲

者の坂本次郎さんとコンビを組んで送る、青春ラブコメ作品。同誌No.9に掲載された、同名の読切作品の好評を受けて連載となった。



©坂本次郎×ミウラタダヒロ／集英社

## 06 2012年度新任教職員

今年度より本学に着任した教職員の方々。

◎客員教授  
酒井忠康（芸術学部）  
木村雅彦（デザイン学部プロダクトデザイン学科）  
Andrew Zago（デザイン学部建築コース）

◎教職員  
三宅良史（芸術学部日本画コース）  
大溝範子（デザイン学部デジタルクリエーションコース）  
後藤直子（デザイン学部建築コース）  
Matthew Au（デザイン学部建築コース）

監事 崎間昌一郎  
監事 位ノ花俊明  
監事 堂山道生  
芸術学部長 松本ヒデオ  
デザイン学部長 佐藤守弘  
マンガ学部長 吉村和真  
人文学部長 堤邦彦  
大学院芸術研究科長 河村源三  
大学院デザイン研究科長 井上斌策  
大学院マンガ研究科長 Jaqueline Berndt  
大学院人文学研究科長 恩地典雄  
情報館長 宮一穂  
学長室長 福岡正藏  
教務部長 恩地典雄  
教務部事務部長 細谷周平  
学生部長 是澤範三  
学生部事務部長 高橋勇  
キャリア支援室長 力士勝  
入学部長 池垣タダヒコ  
入試広報部長 石田涼  
総務部長 鳥居本基代枝

## 09 2012年度在学生数

芸術学部 893名  
デザイン学部 759名  
マンガ学部 826名  
人文学部 1192名  
大学院 140名  
合計 3810名  
(2012年5月現在)

- 20-21 研究室探訪 Laboratory / 教員のブックレビュー Book Review / セイカ事典 Cyclopedia
- 22 イベント紹介 Event / 講演会レポート Report
- 23 精華で学びたい方へ Information
- 24 京都精華大学の原点 / ○○を語れ Column



「ユートピア」 藺田智美 (2011年度日本画コース卒業制作)

10

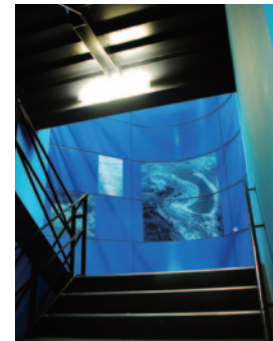
グラフィックデザインコース4年生 本館ジャック展を開催

4月、デザイン学部グラフィックデザインコース4年生の豊永政史ゼミの学生が、校舎「本館」を舞台に展覧会を行った。

「Graphic Art 2012 Spring Exhibition」と名づけられたこの展示では、学生らの普段のアートワークを建物のさまざまな空間を使って表現。本館のシンボルでもある赤階段や青階段、廊下、倉庫にいたるまで、学生作品が彩った。



「KUJAKU」 川田優也



「depth」 木下 茜

11

グラフィックデザインコース3年生・卒業生が「毎日広告デザイン賞」優秀賞を受賞

デザイン学部グラフィックデザインコース3年生の梶川麻衣さんと伊藤美未子さん、同コース卒業生の河村真由美さんが、「第79回毎日広告デザイン賞」第1部(一般公募・広告主課題の部)において優秀賞を受賞した。

広告クリエイターやグラフィックデザイナーの登竜門である同賞は、オリジナリティあふれるアイデアに富んだ新聞広告のデザインを公募。第1部は、協賛広告主の課題にもとづいた新聞広告を一般より広く募り、審査の結果、13点の入賞作品が選ばれた。



YKK AP 「企業広告」30段カラー3点シリーズ  
AD 梶川 麻衣 / AD 伊藤 美未子 / I 河村 真由美

12

アニメーションコースの学生が「公共広告CM学生賞」準グランプリ受賞

「第8回公共広告CM学生賞」において、マンガ学部アニメーションコースの学生が準グランプリ、優秀賞を受賞した。受賞作品はいずれも、「ストップモーションアニメーション実習」作画演習」の授業で制作した。

グランプリ・準グランプリBS民放賞の受賞作品は1年間、BS民放8局で放映される。

◎準グランプリBS民放賞

「しつけと虐待はちがう」

帰山 菜、磯野遥香、岩田紗由美、志賀明子(アニメーションコース4年生)

※3年次制作作品

◎優秀賞

「じぶん、みせてる?」

原 静花、茂木孝恵、中野暁仁、鷺尾悠(アニメーションコース4年生)

※3年次制作作品

「温暖化なう!」

百合志保子、本吉聡子、枅居耶衣、朴ボラ(アニメーションコース3年生)

※2年次制作作品

研究室探訪

先生の研究室、授業を訪ねて。

芸術学部陶芸コース  
宮永研究室

宮永甲太郎

芸術学部陶芸コース教員。美術家。レンガやガラス、書籍などさまざまな素材を扱い、作品と空間や景色を調和させるインスタレーション作品で知られる。

陶芸コース3年生が最初に行う「鑄込み(いこみ)」の授業。鑄型をつくって土を流す「泥(でい)しよう鑄込み」に取り組み、大量生産のしくみを学ぶ。1年から積み上げてきた基礎技術を学ぶ最後の授業となる。

ここで学生たちが取り組むテーマは、じつにユニーク。鑄込みの技術を活かして「いつ」「どこ」「何のために」という3つの条件からなるテーマで作品をつくるという課題だが、「10年後」「海の底で」「禁じられた恋をする二人が愛を育むために」なんていうロマンチックなものから「昼」「世界中で」「寝るために」、「夏に」「靴下と靴下の間で」「生き延びるために」など頭をひねるものまでさまざま。

それもそのはず、これらは各学生が出した単語をシャッフルして組み合わせたもの。偶発的に与えられるテーマで、学生たちは制作に取り組んでいた。



担当するのは宮永甲太郎先生だ。「シャッフルするのはテーマの意味をなくすため。言葉には正体がありません。いかに想像力を働かせてテーマに結びつけられるかが問われます。これらの作業はすべて、自分を知るための作業なんです」。

ものづくりを仕事とするとき、クライアントの意向に寄り添い作品をつくるタイプ、それを越えて自分の思考を作品にするタイプ、ふたつにわかれるという。これまでの基礎の授業では、テーマや条件が与えられた制作だった。だが、今後、学生らは自分でテーマを見つけ、作品をつくることになる。鑄込みの授業はその「移行期間」として、自分のタイプを見極める機会なのだ。

さらにこの授業では、ディスカッションの時間が多く設けられている。

自分がなにをつくるのか、まずはチーム内でプレゼンテーションをし、みんなに理解してもらえなければ作れないというルールがある。「思想、哲学がない作品は、作品としてのリアリティがない。作品として完成させるためには、自分の考えがあり、それを理解してくれる人を増やさないといけません。目の前の人を理解させることができる作品でなければ、作品に思想、哲学が宿ることもないのです。これは時代をつくる人材を育てるために重要なことだと思います」。

取材に答えながら、「学生はみな普通の器でないものを作りたがる」と首をひねる宮永先生。教室では、仲間におつと言わせるものを作りたい学生たちが、懸命に石膏をけずっていた。

大学では、英語の先生になるコースに所属していたので、どうしても「英文学」という授業を受けないといけなかったんです。嫌々受けていた授業で紹介されたのがブレイクの『無垢の予兆』という詩の一節。訳すると「一粒の砂の中に世界を見／一輪の花に天国を見るには」といった内容で、小さな一粒の砂に世界を感じるという、ある種東洋的な思想をヨーロッパの人が持っていることに驚きました。音読を重視する先生だったからだと思いが、なにより英語の持つリズムが美しく、文学に目覚めるきっかけになったのがこのブレイクの詩ですね。

「ことばと文化」は「言語学」の先生が紹介してくれた1冊。この本の中で「辞典はことばの意味を説明しない」と書かれています。当然のことかもし

Book Review

教員のブックレビュー

人文学部・藪内智先生が選ぶ「ことばにはまるキッカケをくれた」本



藪内 智

人文学部教員。専門はことば学。大学卒業後、大阪教育大学附属池田中学校などに教員として勤務。その後、大阪大学言語文化学部言語科学実験部門助手を経て、2003年より本学に。



【Selected Poems】ウィリアム・ブレイク (Penguin Popular Classics) ウィリアム・ブレイクは18世紀に活躍したイギリスの詩人。日本でも大江健三郎に強く影響を与えたことで知られる。



【ことばと文化】鈴木孝夫 (岩波新書) 日本語と日本文化のユニークさを浮き彫りにし、ことばを文化と社会の構造から解き明かす。ことばの問題に興味を持つ人の入門書。



【笑い】ベルクソン著、林達夫訳 (岩波文庫) 人間特有の「笑う」という現象と、それを喚起する「おかしみ」の構造について古典喜劇を題材として分析した一冊。

ありませんが、ハツとする表現です。例として挙げられていたのは「石」とはなにか。ある辞典の「石」のページをめくると「土や木より固く、水に沈み、砂より大きく、岩より小さいかたまり」と書かれている。石とはなにかを説明するのに、砂や岩との比較で定義づけしているだけなんです。改めて「ことばの意味」は何かという本質を考えさせてくれた本で、今読んでも内容がまったく色あせていない。学生にもよくすすめています。

前の2冊と比べると、「笑い」は自分の趣味により近い本ですね。僕は大阪生まれ、大阪育ちで小さい頃からお笑い生活の一部。あまりにも生活に近い存在で、笑いなんて研究対象にならないと思っていました。ところがこの本は笑いを哲学的に解き明かしている、学問としての笑いに触れた感覚が

セイカ事典 へ行

京都精華大学に関わりの深い人、事、物を解説する。

あ アセンブリー・アワー【あせんぶりー・あわー】

「集会の時間」の意味。1968年開学時より芸術文化・思想的な諸問題を考えるために設けられた時間。現在は「アセンブリーアワー講演会」として、年間約10名のゲスト講師を招き、学生らが旬の芸術や思想に触れられる機会となっている。

い 伊谷賢蔵【いたにけんぞう】

1902-1970。洋画家。1968年から70年まで美術科教員。美術科初代主任。75年に大学にて遺作をまとめた画集を出版。遺族の厚意により、その利益を基金に滋賀県朽木村の廃校となった小中学校を購入・改装。現在、「朽木学会」として宿泊やクラブ活動等に利用している。

う 上田 篤【うえだあつし】

1930-。建築学者、建築家。大阪万博のお祭り広場などの設計を手がける。1987年から2001年まで、美術学部、芸術学部在籍。現在の校舎「風光館」「流溪館」は上田氏の設計。

え L祭【えるさい】

2006年1月、05年度で廃止される人文学科を記念して、上野千鶴子氏、谷川俊太郎氏を招いて人文学部人文学科廃止記念行事を開催。「L祭」と呼ばれた。谷川氏より詩「さよならは仮のことば」をいただく。

お 岡本清一【おかもとせいいち】

1905-2001。政治学者。京都精華大学(京都精華短期大学)初代学長。1968年から90年まで英語英文科、人文学部の教員を務めた。

おーしま【おーしま】

1970年代、自治会ボックスで学生たちに飼われていた白い犬。

# Information

## 精華で学びたい方へ

京都精華大学が行う  
受験生・高校生向けイベントを  
紹介します。

### オープンキャンパスのおしらせ

6月・7月に、オープンキャンパスを開催します。

◎ 6月のオープンキャンパス  
日時：6月9・10日(土・日)  
10時～16時(受付9時30分)  
場所：京都精華大学  
内容：各コースワークショップ、AO入試対策プログラム、ポピュラーカルチャー学部紹介イベント、芸術学部教員作品展、卒業生出張カフェ、入試ガイダンス、個別相談など

◎ 7月のオープンクラス  
日時：7月16日(月・祝)  
13時～17時(受付12時30分)  
場所：京都精華大学  
内容：授業公開、進学相談会(入試個

### アセンブリーアワー講演会

Bose [スチャダラパー] (ミュージシャン)  
×  
大宮エリー (映画監督・脚本家・演出家・CMプランナー)  
「どうして音楽だったのか どうして映画だったのか」

【日時】 6月7日(木) 16時20分～17時50分  
【場所】 京都精華大学 黎明館 L-101

### 角田 光代 (作家)

「小説を書くということ」

【日時】 7月5日(木) 16時20分～17時50分  
【場所】 京都精華大学 黎明館 L-101

### デザイン学部・デザイン研究科教授 石川九楊連続 [公開] 講座

「“Style.” 誰がそれを美しいと決めたのか。」

石川九楊(デザイン学部・デザイン研究科教授)による連続公開講座を開催します。

【日時】 ● 第1回 5月17日(木)：スタイルとは何か  
● 第2回 6月21日(木)：文字のスタイル・書のスタイル  
● 第3回 7月12日(木)：東アジアのスタイル  
○ 大学院研究科 銷夏講座 8月28日(火)、29日(水)、30日(木)  
毎回13時～14時30分  
【場所】 京都精華大学 春秋館 S-201

### デザイン学部建築学科・連続レクチャーシリーズ

「2012年前期プログラム 可能性の空間 [空間論演習1]」

建築コース教員、ゲスト講師が空間をめぐる対談や講演を行います。

「建築的思考に居場所を与える」  
RAD (リサーチャー：川勝真一／榎原充大) × 片木孝治  
【日時】 6月9日(土) 13時～

「花と華と間と空間」  
片桐功敦(華道家／花道みさぎ流家元) × 津田朋延  
【日時】 6月16日(土) 13時～

「集団でデザインすること」  
graf (decorative mode no.3) (クリエイティブユニット：置田陽介／小坂逸雄／井上真彦) × 津田朋延  
【日時】 6月30日(土) 13時～

「FHAMS というコンセプト」  
FHAMS (インテリアと建築のデザイン+施工：安藤隆太郎／福本祐樹／笠原慎一郎) × 津田朋延  
【日時】 7月7日(土) 13時～

「空間の<空>は無限 <間>は流動している。」  
黒崎輝男(流石創造集団株式会社 CEO) [Coordinator：片木孝治]  
【日時】 7月14日(土) 13時～  
【場所】 京都精華大学 風光館 F-331

## イベント紹介

京都精華大学に関係するイベントをご案内します。一般の方も聴講いただけます。

## Event

# Report

## 講演会レポート

京都精華大学で行われた  
講演会レポート。

### 岡本清一記念講座

戦後思想を問い直す視座  
～柴谷篤弘と中原佑介の仕事～

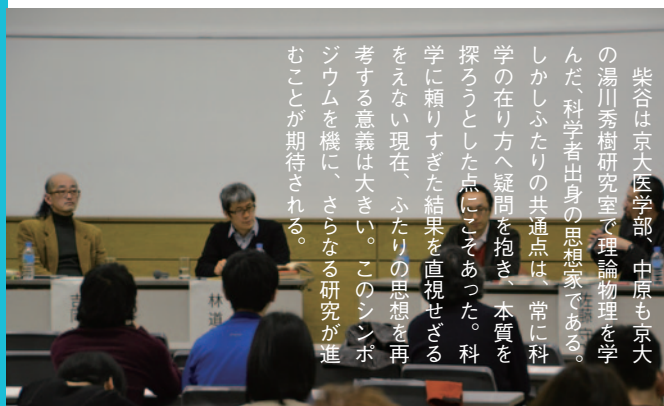
戦後思想に新しい領野を切り開いた  
ふたりの人物が、昨年の震災前後に亡  
くなられた。思想家・柴谷篤弘、美術  
批評家・中原佑介。共に本学の学長を

つとめた人物である。戦後とフクシマ  
後。いま再び激動の時代に、我々が問  
い直すべきものは？ふたりの業績か  
らその答えを探るべく、シンポジウム  
が開催された。

生物学の第一人者でありながら、反  
科学論を唱え、さまざまな社会問題に  
対して鋭い投げかけを行った柴谷篤  
弘。彼の著作は大勢に読まれてきたが、  
柴谷自身について論じられたことは少  
なかった。柴谷はなぜ科学を捨てたの  
か。シンポジウム柴谷編は「我々にとつ  
て柴谷篤弘とは「何」か」をテーマに、  
科学技術論、科学哲学などを専門とす  
る3人の研究者が、その思想の変化に

ついて議論した。中島勝住(人文学部  
教員)は最後に「柴谷は常に批判的な  
立場をとり、マイノリティであり続け  
た。その姿勢こそが、学生達に伝えて  
いきたいこと。」とコメントされた。

一方、中原編は、「中原佑介の死が  
暗示するのは、現代美術の死か、それ  
とも新たな始まりか？」という投げ  
かけからスタート。テーマは「批評の  
技法(アート)」とされ、日本の現代  
美術の創成期に中原が果たした功績を  
振り返りながら、中原独自の科学的な  
視点をもった評論について、また、そ  
もその批評の在り方についてなど、  
幅広い議論が美術史および美学の研究  
者3名によって行われた。



柴谷は京大医学部、中原も京大  
の湯川秀樹研究室で理論物理学を学  
んだ科学者出身の思想家である。  
しかしふたりの共通点は、常に科  
学の在り方へ疑問を抱き、本質を  
探ろうとした点にこそあった。科  
学に頼りすぎた結果を直視せざる  
をえない現在、ふたりの思想を再  
考する意義は大きい。このシンポ  
ジウムを機に、さらなる研究が進  
むことが期待される。

### 進学相談会のおしらせ

全国各地で行われる進学相談会に参  
加しています。本学のスタッフが質問  
にお答えします。  
どの進学相談会でも全学部の説明を  
聞くことができますので、最寄りの会  
場に気軽にお越しください。  
※詳細は本学 Web サイトをご確認  
ください。

オープンキャンパス Web サイト  
www.kyoto-seika.ac.jp/opencampus

※無料送迎バスを運行します。  
※詳細はオープンキャンパスサイトで  
お知らせしています。

別相談)、ポピュラーカルチャー学部・  
ギャグマンガコース・キャリアクターデ  
ザインコースの説明・個別相談など  
◎ 7月のオープンキャンパス  
日時：7月28・29日(土・日)  
10時～16時(受付9時30分)  
場所：京都精華大学  
内容：各コースワークショップ、公募・  
一般入試対策プログラム、学生作品展  
示、個別相談など

■北海道・東北  
仙台 6月5日(火) 15時～18時  
ホテルメトロポリタン仙台  
仙台 7月31日(火) 10時～16時  
仙台市情報産業プラザAER

■関東  
東京 7月7日(土) 11時～16時  
東京国際フォーラム  
東京 7月15日(日) 10時～16時  
サンシャインシティ文化会館  
■中部・北陸  
金沢 6月13日(水) 15時30分～19時  
金沢駅もてなしドーム  
福井 6月14日(木) 15時30分～19時  
フェニックス・プラザ  
愛知 7月1日(日) 13時30分～17時  
ウインクあいち  
静岡 7月14日(土) 13時～18時  
ツインメッセ静岡南館  
ほか

■近畿  
大阪 6月2日(土) 14時～17時  
チサンホテル新大阪  
大阪 6月3日(日) 13時～16時  
天王寺MIO  
京都 6月16日(土) 12時～16時  
京都市勤業館(みやこめっせ)  
大阪 6月18日(月) 15時45分～18時30分  
堺市産業振興センター  
ほか

■中国  
岡山 6月26日(火) 15時45分～18時30分  
岡山コンベンションセンター  
広島 8月1日(水) 12時～17時  
広島国際会議場  
■四国  
徳島 6月4日(月) 15時30分～18時  
ホテルクレメント徳島  
高松 6月6日(水) 15時30分～18時



受験生フリーダイヤル 0120-075017  
nyushi@kyoto-seika.ac.jp

### 資料請求について

京都精華大学のパンフレット、入試  
の案内、オープンキャンパスの案内が  
必要な方は、左記連絡先か Web サイ  
トより資料をご請求ください。

全日空ホテルクレメント高松  
高知 6月6日(水) 15時45分～18時30分  
高知新阪急ホテル  
松山 6月8日(金) 15時45分～18時30分  
松山市総合コミュニティセン  
ター体育館  
ほか

■九州・沖縄  
那覇 7月8日(日) 10時～17時  
那覇市民会館中ホール  
福岡 7月30日(月) 13時～16時  
博多スターレーン2F

イマニユエル・ウオーラーステイン（アメリカの社会学者。京都精華大学創立25周年記念事業で来日講演を行った）は、1968年に「世界システムにおける革命」が生じたと言っている。ベトナム反戦運動、世界中で高揚した学生運動、ヒッピー・ムーブメント、サブ・カルチャーの隆盛、フェミニズムやエコロジーへの視点：現在をも規定する多くの問題が、同時に連関しつつ提起された年だった。

1968年4月に創立された京都精華大学（京都精華短期大学）も、68年に激化する大学闘争を背景に、既存の大学のあり方をラジカルに否定するなかでその「自由自治」の理念を形成した、と語られることが多い。

しかし、京都精華大学の建学の理念を明文化した、初代学長になる岡本清一の「京都精華短期大学における教育の基本方針に関する覚書」の署名日は1967年3月25日である。この「覚書」が京都精華短期大学の設置母体である精華学園に受け入れられたことで、岡本は学長就任の要請を受諾し、67年4月には短期大学設置準備室が設けられた。京都精華大学の教育理念はむしろ1967年に醸成されていたというべきだろう。

では、1967年とどんな年だったのか。京都精華大学はどのような時代の中で、いかに準備されたのか。振り返ってみよう。

1967年

1月 サンフランシスコでカウ  
ンターカルチャーの祭典「ヒュー  
マン・ビーイン」が開催される

サンフランシスコのゴールデ  
ン・ゲート・パークに、2万人  
以上のヒッピー、学生運動家ら  
が集まり、「ヒューマン・ビーイ  
ン」が開催された。出演者は、ビ  
ート詩人アレン・ギンズバーク、  
左翼活動家ジェリー・ルービン  
らのほか、音楽界からグレイト  
フル・デッド、ジェファソン・  
エアプレインなど。鈴木大拙は  
終始舞台上で座禅を続けていた  
といわれる。参加者はスピーチ  
や音楽を聴き、踊り、花を配り、  
裸で抱き合った。それは政治集  
会でもなく、商業コンサートで  
もない、愛と平和と自由を求め

る若者の祭典だった。

3月 ナンテール大学で女子寮  
が占拠され、パリ5月革命の端  
緒となる

パリ西部のナンテール大学で、  
のちに欧州緑の党代表となるダ  
ニエル・コーン＝ベンディット  
ら学生たちが大学改革案へ反対  
すると同時に、男子学生の女子  
寮への入室禁止規則の廃止を要  
求して女子寮を占拠した。学生  
たちは「禁じることを禁じる、  
自由を侵すことを禁じて初めて  
自由が始まる」と、落書きした。  
コーン＝ベンディットの処分を  
めぐり、紛争は地方の大学へも  
拡大。翌年、ナンテールの学生  
がソルボンヌ大学から排除され  
たことを契機に、運動は激化し、

5月10日には国家権力の抑圧に  
反対し、自由と平等を求めた数  
百万人の労働者、学生がゼネス  
トに突入した。このパリ5月革  
命は、68年に世界各地で生じた  
既存の価値観に対する対抗運動  
の導火線となった。

4月 徴兵を拒否したモハメド・  
アリが世界タイトルを剥奪され  
投獄される

ボクシング世界ヘビー級王者  
として圧倒的な強さを誇ったモ  
ハメド・アリは、ベトナム戦争  
が激化するなかで、宗教的信念  
にもとづき徴兵を拒否。それ以  
より、5年の禁固刑と1万ドル  
の罰金刑を宣告される。そして  
無敗のまま世界タイトルは剥奪  
され、ボクシング界を追放され

た。

「敵はお前らだ。ベトコンでも中  
国人でも日本人でもない。俺を  
妨害しているのはお前らだ。俺  
は自由や正義や平等を求めてい  
るのに」

6月 史上初の本格的なロック  
野外フェスであるモンタレー・  
ポップ・フェスティバルが開催  
される

サンフランシスコ郊外で開か  
れた過去最大の野外コンサート、  
モンタレー・ポップ・フェステイ  
バルには、当時人気の頂点にあ  
ったママス&パパスらフォー  
ク・ロック勢を中心に、ソウル  
界を代表するオーティス・レデ  
ィング、シタールの名手ラヴィ・  
シャンカールらも迎え、のべ30

組を超えるミュージシャンが出  
演し、3日間で10万人を動員し  
た。「Music, Love &  
Flowers」がテーマに掲  
げられ、フラワー・パワー、ラ  
ブ&ピースのメッセージを世界  
に送った。未だ無名に近かった  
ザ・フー、ジミ・ヘンドリック  
ス、エクスペリエンス、ジャニス・  
ジョプリンらが圧倒的パフォー  
マンスで、世界のスターダムに  
躍り出る契機になった。

6月 ミラン・クンデラが「プ  
ラハの春」の契機となった言論  
の自由を求める演説を行う

第4回チェコスロバキア作家  
同盟大会は、検閲の廃止や芸術  
表現の自由を求めて、硬直化し  
た共産党独裁政権を激しく批判  
した。開会演説を行ったのは、  
のちに「存在の耐えられない軽  
さ」の世界的ベストセラーによ  
り、その名を知られることとなっ  
たミラン・クンデラであった。  
クンデラは開会演説で「言葉や  
思考の自由に対するいかなる介  
入も文学の発展にとって障害と  
なり、精神的自由は文学の命運  
がかかっている」と述べた。こ  
の大会を直接的な序幕として、  
「プラハの春」と呼ばれる改革が  
進められた。「人間の顔をした社

会主義」をめざし、言論の自由  
化などの政策が実行されたが、  
68年8月ソ連を中心とした軍事  
介入によって改革は圧殺された。  
クンデラは教職を解任され、作  
品はすべて発禁処分となったう  
え、フランス亡命後はチェコ国  
籍も剥奪された。

10月 チェ・ゲバラがボリビア  
で銃殺刑に処せられる

キューバ革命においてゲリラ  
戦を指揮し、勝利に貢献したエ  
ルネスト・チェ・ゲバラは、革  
命の英雄と称えられ、新政権で  
要職に就いた。しかし、あくま  
でもひとりの革命家であり続け  
ようとしたゲバラは、キューバ  
を去り、再び世界各地の革命運  
動に参加する。20名のゲリラ部  
隊を率いて戦闘中に、ボリビア  
政府軍に捕らえられ、銃殺刑に  
処せられた。その生涯は幾度も  
映画化され、その肖像は理想を  
求める世界の若者のシンボルと  
なっている。

「もし私たちが空想家のように  
いわれるならば、救いたい理  
想主義者だといわれるならばで  
きもしないことを考えていると  
いわれるならば何千回でも答え  
よう」「その通りだ」と

京都精華大学の前身である京都精華短期大学が1968年に創立されて、44年になる。多数の卒業生を輩出し、学部数、学生数も増え、たしかな発展を遂げる一方で、「精華らしさがなくなっている」という声も聞こえてくる。たしかに創成期を直に知る教職員もほとんどいなくなり、新しく参加したメンバーや入学した学生には「自由自治」という言葉だけが抽象的に響いているようになってしまっているかもしれない。

そんな現在だからこそ、京都精華大学における「自由自治」とは何なのか、いま一度語られなければならない。

45周年を迎え、新学部、新学科の開設など大きな飛躍を迎えようとする2013年を前に、京都精華大学の教育理念や存在意義、なぜ生まれ、どこへ向かうべきなのか——そうした京都精華大学の原点を探求するのがこの連載の目的である。

## 京都精華大学の原点 第1回

# 『1967 誕生前夜～時代が京都精華大学を求めた』

